

## 令和6年度第1回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 令和6年7月31日（月）  
14:30～15:30  
場 所 志摩市役所602・603会議室

### 1. 出席者（順不同・敬称略）

#### （1）審議会委員（13名）

齋藤平（会長）、岩崎恭彦（副会長）、牧谷拓、柴原行正、柘植規江、八橋浩子、岡崎弘和、井口裕史、横田由美、東真由子、田中友康、谷崎充、井上摩紀

#### （2）事務局（4名）

山本和輝、坂井陽、米奥宏規、松井翔太郎

### 事項書1. あいさつ

#### 【齋藤会長】

昨年度改訂された第3期志摩市地方創生総合戦略について、今回は実績報告ということである。進捗に関しては、数値目標と比べるとうまくいかないところもあり、この人口減少対策を講じていくことの難しさを感じている。

本日は委員の皆様には、それぞれ専門的な立場からご意見いただきながら、今後の各施策の方向性等について、より良い提言をさせていただければと思う。

#### 【事務局】

※所属先の人事異動等により新たに5名の委員の委嘱があったことを説明。委員および事務局の体制も変わっており初顔合わせとなる委員もいるため、改めて全員自己紹介を実施。

※委員14名中13名の出席により会議が成立していることを報告（志摩市地方創生審議会条例第5条第3項）。配布資料の確認ののち、志摩市地方創生審議会条例第5条第2項の規定に基づき、議事進行を齋藤会長に依頼。

### 事項書2. 議事（1）第3期志摩市創生総合戦略に係る令和5年度の実績状況について

#### 【※事務局より資料に基づき説明】

第3期志摩市創生総合戦略の令和5年度の実績状況について説明。

平成28年に策定した「志摩市人口ビジョン」の「人口の将来展望」の見直しを令和4年12月に行った。人口減少を抑制するためには、早急な社会減対策に加え、安定的な人口規模を確保するため合計特殊出生率を上げていくことなどが重要。見直し後のビジョンでは将来的に3万人程度の人口を維持できるようなシミュレーション・展望を掲げている。その将来展望を実現していくために、昨年度12月に改訂した「第3期志摩市創生総合戦略」において、4つの基本目標を掲げている。

その4つの基本目標に対する令和5年度実績の達成率は、すべて「B」の評価ということで、概ね

進捗できているという状況。また、これらの目標を通じた総合的な目標である「社会減の抑制」については、令和4年度の転入出の差し引きが「-365人」となっており、令和5年度は「-300人」とした目標値に対し、実績値が「-222人」と大きく改善したことから、達成度を「A」と評価した。

昨年度の出生率に関しては、全国的にも減少しており、当市においても微減であったが、志摩市への移住者は過去最高の56人と聞いており、志摩市の人口等推移（参考資料）を参照すると、令和4年度と比して男性・女性とも30代付近の比較的若い世代の転入が増えている一方で、20代の転出件数が減少するなど、前年に比べ社会減について改善されているような傾向が読み取れる。

今後の取組の方向性として、「若者が魅力を感じるしごとの創出」や「UIターン・定住の促進」、「ライフステージに応じた切れ目ない支援」など、社会減対策と自然減対策の両輪で総合的な対策を進めていく。

#### 【齋藤会長】

資料1-1の第3期志摩市総合戦略の取組状況について、「社会減の抑制」の項目において、令和5年度の目標値が「-300人」となっているところ、実績値が「-220人」となっており達成できている。しかも目標値を大きく上回る達成状況。これまでの取組が功を奏しているのではないかとと思われる。男性・女性とも転入者数が増えている印象があるとのことだが、このあたり何か考えられる要因はあるか。

#### 【事務局】

現時点でこれといって確たるものはなく、あくまで推測ではあるが、令和4年度と5年度で異なる点として、新型コロナウイルス感染症の収束が一つにあるのではないかと考える。この地域の産業、特に観光産業などにおいて、コロナ禍と回復期では雇用の状況も異なる。コロナ禍においては雇止めがあったという話もあるので、そういったことが影響しているのではないか。ただ、推論でしかないため、そのあたりの裏付けなどは取っていきたいと考えている。

#### 【齋藤会長】

そのあたりはぜひ検証していただき報告をお願いしたい。

次に資料1-2の具体的施策における取組状況について、2ページ目の「第一次産業の担い手確保・育成」の水産業啓発事業でSDGsの啓発マンガ「真珠養殖」の多言語化とあるが、こういった意図によるものか。

#### 【事務局】

現在、真珠に対する外国での需要が好調なこともあるため、その関係で啓発マンガの英語版も作成した。マンガ作成とは別で、学校における啓発事業も行っており、2つのことが文中に混ざっているため、わかりにくい説明となってしまっているが、学校において英語版マンガを使って何かやるということではない。

#### 【齋藤会長】

続いて1-②「地域の経済基盤となる産業を活性化する」について、何かご意見あれば。

#### 【谷崎委員】

産業に関して、新規とか大規模あるいは拡大とか移住だとか、そういう規模の事業に対して助成や施策はあるが、昔からその地域で細々と第一次産業に関わっている方への施策はあまりない。そういった方々は資金繰りや人的要因で継続していくことが厳しい状況にある。

例えば、米づくりでも、トラクター等の1,000万~2,000万円するような機械導入についての助成はあるが、小規模の100万~200万円の機械は何の助成もないと思う。どんどん昔からの小さい事業が衰退していつている。

志摩市は伊勢志摩国立公園内にあるが、そういった方々が田畑をすることによって、そのような自然景観先を作り引き継いで保ってきたと思う。そういう方々に対しても、何か施策など大げさなものでもなくても良いので、目を向けていただきたいと思う。

#### 【齋藤会長】

そういう市民の皆様の肌感覚に合ったような施策、是非そういった取り組みをお願いしたいと思う。これまでも色々助成事業をされているとは思いますが、何か具体的に何か思いつかれるものはあるか。この資料では目立つような事業を多くピックアップして掲載されているかと思うので、日常的に行っている事業も含めてワンストップで分かるような何か一覧があれば良いかと思う。

#### 【事務局】

なかなかすべてを網羅したものを提示するというのも難しいところだが、ご意見を参考に資料の作り方については改善していきたい。

#### 【岩崎委員】

今おっしゃっていただいたのは、総合計画の方の体系でカバーする内容と思う。日常的に就農している方々に対しては、総合計画において施策体系があるのでそちらで実施する。他方、移住者や新規就農者の人たちに対する施策が総合戦略にあたる部分になるかと思われるので、総合計画と総合戦略が一体となって志摩市を作っていくのだというところが、市民の皆様に見えるようになっているかといわれると、なっていないという課題を提起していただいたものと思う。

そこをうまく総合計画の体現することと総合戦略の体現することがこう連動していくということの見せ方について、一度ご検討いただくと良いかというご意見だと思う。

### 議事（2）地方創生に係る国の財政支援制度の活用状況について

#### 【※事務局より資料に基づき説明】

地方創生に係る国の財政支援制度の活用状況について説明。

「デジタル田園都市国家構想交付金」については、令和4年度から始まった事業3つ（「スポーツを核とした複合的なツーリズム展開事業」、「観光周遊の観光地づくり事業」、「買い物利便性向上事業」）と、令和5年度からの新規事業ということで、「若年層の定住を促進するしごと創造プロジェクト」、「デジタル技術を活用した地域公共交通ネットワーク構築事業」の計5事業について実施。

地方創生応援寄付金、いわゆる「企業版ふるさと納税」については、市外の4社の企業から、寄付金合計515万円をいただいた。企業のご意向に沿ったような事業に活用させていただいた。

寄附いただいたタイミングで令和5年度中に執行できない一部については、基金積み立てを行い6

年度に執行予定。

「新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金」と、「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」については、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた頃から、コロナ禍における経済対策のための臨時措置として地方に交付された交付金。昨年度途中、ウクライナの戦争も含めて物価高騰に対応する新しい交付金へと変わっている。本交付金での昨年の実績は、プレミアム付商品券事業や小中学校の給食費高騰への対応に活用。また、物価高騰の生活支援給付金事業として、非課税世帯・住民均等割のみ課税世帯に対する 10 万円の給付事業を実施。

令和 6 年度事業の予定として、「デジタル田園都市国家構想交付金」については、昨年度から継続の 4 事業を引き続き実施。予算ベースで 3,600 万円を想定。

地方創生応援寄付金「企業版ふるさと納税」については、中学生海外派遣事業などに活用。昨年よりも拡充する部分に活用予定。

また、「物価高騰対応重点支援臨時交付金」については、今年度もプレミアム付き商品券事業と、新たな低所得世帯への給付金、定額減税で減税しきれない対象者に対する調整給付金事業などを実施していく。

いずれの交付金についても、この審議会において効果検証を行って市のホームページ等で掲載するという、適切な運用を行っていることを広く公表することが求められている。

今回はあくまで現状報告のみであり、次回以降の審議会において、これら個別の事業について改めて効果検証を行わせていただく予定。

#### 【齋藤会長】

予定されていた議事については以上になるが、これまでの感想や審議会の進行などについて各委員から一言お願いしたい。

#### 【井上委員】

少し議事から外れてしまうが、最近、学校給食からミニトマトなどの野菜を献立に入れない話をテレビで伺った。噛めない子どもが呑み込んで詰まらせるといけないということだが、志摩市でもそのようになっているのか。

#### 【八橋委員】

最近、生の野菜自体をそのまま出すことは給食の献立で見なくなった。何かしら加熱されている場合がほとんど。以前は志摩市の給食でもミニトマトは出ていたが、最近ミニトマトが給食に出ていない気がする。

#### 【井上委員】

母子家庭の關係に携わらせていただくのだが、お金がないから子どもが「歯が痛い」と訴えても歯医者者に連れていけない家庭がある。そのまま小学校に上がった時分に歯の上に永久歯が生えてくる。そうなる歯並びが悪く噛めなくなってしまうという事例を聞く。志摩市は未就学児の医療費の無償化を行っているが、就学児の場合は現物支給で先に診療代を支払って後からその分戻ってくることになっている。ちょうど永久歯に生え変わるタイミングが小学校 1 年生頃なので、経済的な理由で歯の治療を受けられないまま、そのような状況が起こっているものと思う。いつも母子の關係で集まるとその話題になる。本日出席の委員に農業をされている方が見えたので、現在の給食事情に

ついて尋ねた。

#### 【谷崎委員】

意見というほどではないが、施策について志摩市のみならず、例えば、もっと広域に考えてもいいと思っている。別に、伊勢市・鳥羽市・南伊勢町が実施する事業に対して参加・応援で来た人に対して、例えば助成金を交付する等もっと広範囲で活用できる人というような、そういった施策があっても良いのではと感じる。

#### 【田中委員】

取り立ててこれというのではないが、資料 1-1 の達成率について、80%以上 100%未満は「B」として評価されているが、例えば、2（1）の出生率のところ、実績値 1.16 で達成率「B」となっているが、基準値（1.19）から見れば、実績値は下がってしまっている。意見として、80%以上であれば一律「B」として評価するのはどうかと感じる。意見としてだが、評価の方法について検討をお願いします。

#### 【東委員】

社会減が少し抑えられたというのは喜ばしいことではあるが、これだけ改善したのはなぜか。内訳の女性の転入を見たときに、20代から30代、40代手前みたいのところはかなり増えている。特にその30歳から34歳のような、前年多分おそらく16人が31人とほぼ倍ぐらいになっている部分もあるため、何か大きな要因がないとこんなに大きくなるような気がしている。

この25歳から40歳までぐらいの方々が結婚されているのか、独身で移住してきたのかでかなり変わってくる。独身の場合は志摩市の魅力がかなり外へ発信できているとも考えられるし、夫婦での移住だった場合には志摩市の子育て支援が要因になっているなど考えられる。もし分かれば、結婚での流入なのか。独身の方なのかどうか何かその辺りの詳細調査などはされているか。

#### 【事務局】

本当に公表されているような公的な統計情報しか把握できていない。移住者が結婚しているかなどの属性のような情報までは正直分からない。委員がおっしゃるように、そのあたりの情報がわかると意味合いも変わってくる。そもそも、そういった情報が把握できるのかも含め確認したいと思う。

#### 【東委員】

主な要因を特定することは多分難しいと感じる。何か1つすごく志摩市にとってプラスになる要素がここにもあるような気がする。例えば、ビーチサイドマルシェにしても、婚活と銘打たれると逆に引いてしまうところ、うまくその1歩手前で自然な出会いの場を創出する本当に自然に若者が集う場を企画された。インスタでの情報発信など、若者に任せた運営みたいにした結果、すごく良いイベントになったと感じる。ここのところで何か分かることがあれば、この先の展望に期待が持てることなのではないかと個人的に感じた。

#### 【横田委員】

ハローワークの現状でいえば、求職者も横ばいだが、どんどん高齢化が進み60歳代が増えている。

そういう意味で、今回特に若い方が転入してきているとのことだったので、どのようなところへお勤めなのか、どういう経路で見えたとか、どういう職種の方に就かれたとかが分かるようであれば、教えていただければ。求人開拓していきたいなど今思っているので、また、情報共有などお願いしたい。

#### 【井口委員】

銀行の立場からいえば、どうしても人口が減少していく中で、店舗をかなり縮小して人員も減らしていることで非常に残念な流れになっているが、この4月に赴任してきて、志摩は食べ物も美味しく、人も温かい方が多いと感じているし、子どもを預ける場所がきちんと小学校にあつて非常に安心して働けるという声も聞く。良いところは余所から見ないと分からないこともあるかと思うので、子育てや観光情報の発信や仕事の場の創出など、さらに発信していただけるとありがたいと思う。

#### 【岡崎委員】

2年前に四日市市に引っ越したが、今四日市は人口が増えている。大きな要因として、「キオクシア」の工場ができた影響がかなり大きいと思う。家もとてもたくさん建っており、銀行の住宅ローンの部門に先般まで在籍していた際は、本当に毎月どれだけ家が建つのかというくらいの状況、特に北西地域はそういう状況であった。

何が一番人口減少対策になるか、市が潤うようになるのかと考えると、やはり企業誘致が一番大事ではないかと思う。ただ、「キオクシア」のような企業が志摩に来るとするのは、インフラの問題や輸送コストの面でなかなか難しい。

ここでしかできない研究や何か実験など、産学官連携で、そういったものに賛同してくる企業は海外にもたくさん多分あると思う。そういうものを積極的に、この市にしかできないものを探して誘致していくことが、ひいては人口減少に繋がるのではないかと考える。ここに来ないとできないものを見つけることが非常に大事なのではないかと思う。

また、頑張っているが、やはり自治体単体で頑張られていくには限界もあると思うので、何か地域の総合商社的なものや組合のような協力できるような形ができると良いかと思う。

#### 【八橋委員】

令和5年度に志摩市で生まれた子どもの数は123名だったということを聞いている。先ほどの資料の中で合計特殊出生率の達成率が「B」ということだったが、令和7年に出生率1.5の水準まで上げるとするのは、なかなか一朝一夕でできることではないと感じた。学校教育の立場から一言申し上げると、志摩市は他の地域と比べて地域教材を生かした学習活動が豊かに行えるという非常に大きな特色がある。地域の方や、それから志摩市も自然に出会うことで、自分たちの志摩市を誇りに思える子どもたちを育てていきたいということで日々活動している。

そのほか、これは個人的な意見だが、女性が子どもを産んだ後のことで、以前は出産をして仕事に戻るときに、常勤ではなくて例えば臨時になってしまうとか、職種が元に戻れないことがあるということを知ったことがある。現在そういうことは、随分改善されたとは思いますが、出産後のキャリアをどう捉えていくのかということも、人口減少対策の上では、非常に大きく関わってくることだと思うので、またそのあたり教えていただきたいと思う。

### 【柘植委員】

国立公園の業務に携わっているが、志摩市全域が伊勢志摩国立公園に指定をされており、市民の皆さんが国立の中に住まわられていて、全国にある国立公園の中でこれだけのまちが入っている国立公園はほかにない。国立公園と一緒に皆さん暮らしているというところを大事にしてくださっていることをすごく感じている。国立公園として貢献できることというのは、魅力を発信していくことと思っていて、資料で KPI とかを拝見して、もちろん数値目標もすごく大事だと思うが、今国立公園として取り組んでいるのが、「質の向上」という部分になるので、なかなか数値化していくことは難しいが、そういったものも活用しながら発信すること出来ていければ良いと思う。

### 【柴原委員】

私も人口減少、これが最大の課題だと感じる。私は浜島出身だが、浜島中学校がいよいよなくなっていく。町の学校がなくなっていくというのは、本当に町がなくなるようなもの。10年前には本当に中学校がなくなるとは誰も想像していなかった。

今考えているのが、浜島では色々なスポーツイベントを企画して県外から参加者が集まってくるが、そういう部分を踏まえて、スポーツアカデミーのようなものを作って発信していけないかと思う。幸い志摩市はまだネームバリューがある程度あるので、まだまだそういった方向から、いろんなところに発信をしていけるのではないかと感じる。

何もしないしていると、今まさに浜島中学校がなくなっていくような、少し前に誰も考えていなかったようなことが現実起こりえる。市行政にもそういうことを踏まえて、本当にこの先、志摩市がどのように生まれ変わっていくのか、そういうことを検証していただきたいと思う。

### 【牧谷委員】

農業というのは、先にお金を投資して、収穫物があって初めてお金が入ってくるような感じなので、とてもリスクがある。1回の台風等の風水害で全滅とか普通にあり得るので結構ハードである。また、志摩で農業やるというのは、見渡す限り田んぼ・畑があるようなまとまった土地がなく、各地に耕作地が点在していることもあって、一点集中、集団で集まって耕作などができないところなので、個人で頑張らないといけない。地域おこし協力隊の方とかも入ってやってもらっていると思うが、結構厳しいと思う。サポートしてもらうことがなにより重要である。

あと、健康診断に行かせてもらったりするけど、志摩市の健診とかでも決まった日とかじゃないと受けられない。忙しくても行けてないっていう人もいると思うので、何か、その人に合わせていけるようなものがあったら嬉しいなと感じる。本当に急に体壊す人とかもたくさんいるので。

### 【岩崎委員】

先ほど評価の手法に関して一つ。資料の1-1について、この審議会でも、外部評価をさせていただいていると捉えている。前年度の施策の実施状況についてまずは市で内部評価をする。その市の方で行った内部評価が果たして適切な評価が行われているかどうかということを、私たちは外部委員として外部の目線から評価をする、私たちの役割はそういう役割かなと考えている。今回その内部評価については、数値目標の達成度というところで評価をされているため一貫性はあるかと思う。

そのうえで、例えば、資料1-1の2の(1)の※のついている基本目標1の「誘致又は立地した企業数」のところは、基準年から目標値として5増やすところ1増えたということなので、単純に数値だけで評価をするならば「D」が付くべきところ、他の要素を考慮に入れて「B」を付けたという

評価だが、本来はこういうところを、外部の目線で評価するのが私たちの役割の一つなのではないかと思う。

どういう要素を加味して、市の方で「D」のところを「B」で評価したのか。どういうふうにして、この施策の必要性とか有効性とかを考えておられるのか。そういったことも伺いながら、「そういうことだったら確かにBだよ」というように評価をさせていただくことも私たちの一つの役割なのではないかということを考えながら、本日お話を伺った。

**【齋藤会長】**

またその点については、事務局の方で説明の方法で改善につなげていただければと思う。そのほかよろしいか。事務局から連絡事項などあれば。

**事項書3. その他**

事務局より事務連絡。現在の委員任期が11月10日までとなっているので、10月頃に再度就任依頼を行わせていただく予定。

また、次回会議の開催を11月から12月頃に開催予定。改めて開催の案内をさせていただく。

以上